



〈第四十回〉

若い人たちに語り継ぎたい、
次の世代に残しておきたい。
貴重な話をお届けしますー。

あすへひとこと

「邑楽町の昔ばなし」より

邑楽町の地名あれこれ ⑧



昔は土橋が架かっており、回り水が押し寄せると橋を飲み込んでいま
した。今は河川改良が進み、立派なコンクリート橋が架かっています

どうめ(み)きばし(百目鬼橋)

鞍掛山を南から北に通ずる道路は大昔
から下野国と上野国、そして武蔵国を結
ぶ便利な道として利用されてきました。
ただ、旅人にとっての難所は鞍掛山を
過ぎ、北に下りてすぐの小さい流れの所
でした。

西から東へ続く鞍掛山の丘陵地帯はこ
の辺り一帯、南から北にかけて傾斜して
います。

今でこそ河川改良が進み、新堀川と称
し立派なコンクリート橋が架かっています
が、その昔はそこら辺りは赤堀と狸塚
境の恐ろしい所だったようです。

昔、小川には土橋が架かっていて、平
日は難なく通過できましたが、ときによ
るとはるか西の方からの回り水が一時に
押し寄せ、予期しないときに橋の上を越
して大川になってしまうことがありまし
た。

もちろん、旅人などはこの事情を知り
ませんから、キツネに化かされたような
気持ちだったでしょう。いつか通ったと
きには橋があったことさえ気が付かなか
ったのに、と思ったに違いありません。
北から来た人には目前に横たわる大川
がうなつて流れ、その向こうの鞍掛山は、
峠道がわずかに開かれているものの、こ

んもりしていて、まさにその景観は鬼の
ようだったでしょう。

南から峠坂を下りてくる人も「あれ、
こんな大きい川が水しぶきを上げて道を
ふさいでいる。俺は正気かな、キツネに
化かされているのではなからうか」その
先も急に恐ろしい所のような気持ちだっ
たでしょう。

昔、老いたキツネのことを「どうめ」
といいました。また、恐ろしいものを「鬼」
といいます。

そこで誰言うことなく昔から、この橋の
付近を「どうめ鬼(き)」、その橋を「ど
うめ鬼橋」と呼んできました。

「どうめき」がいつの間にか「どうみき」
に変化し、いつの頃からかは分かりませ
んが「百目鬼」と書いて「どうみき」と
読んでいます。

一説には平将門を打ち滅ぼした依藤太
秀郷ひでさとが、あるとき鞍掛山で一休みして、
この橋に差し掛かりますと、突然馬がい
なくなき、暴れ出しました。そして不覚に
も秀郷は落馬し、折あしく生い茂ったヨ
シで目をついて血が出たそうです。

武勇で知られた秀郷さえも、難所とし
たほどの所ですから、旅人や里の人たち
にとつては「どうめ(み)きばし」(百
目鬼橋)と呼ぶほど恐ろしがられた所で
あったでしょう。

【発行】邑楽町老人クラブ連合会 【編集】あすへひとこと編集委員会
平成10年12月31日発行「高齢者の語り(第六集)あすへひとこと」より



夕暮れ
(おうら中央公園)



Photo 高根澤高明(記録ボランティア)



この広報誌は、自然保護のため
植物油インキを使用しています。

ひとりと From editors

▶昨年11月から広報広聴係の○澤○樹です。私の前の席で情報
政策係の仕事をしている○澤○樹は、この広報誌が発行される頃
には新米/V/Vになっています。私の隣の席で同じ広報広聴係の○
澤○樹は、今月号の広報誌がある意味デビュー作です。そして、私
の斜め前の席で2つの係を兼務されているのが3人の○澤○樹
の係長です。1人の係長の下で仕事をする職員がみな【○澤○樹】
なんです。▶机が近いので当然電話も近いです。私たちの職場に
電話をかけたときを想像してください・・・「はい、企画課の○澤で
す」となります・・・厄介ですね(笑)。皆さんに迷惑を掛けないう
に3人で一致団結して頑張ります。ちなみに私は大樹です(深澤)



この広報誌は、東日本大震災で被災した三菱
製紙のニューVマット紙を使用しています。